

特集

10年後のぱれっとの
ビジョンを描く

～ぱれっと勉強会スタート!

ぱれっとは来年40周年をむかえます。その先の10年(50周年)を見据えどういった方向で事業展開していくか、今年1年をかけて理事・ボランティアや当事者・父母も交え勉強会を開き、現代のニーズに即したビジョンを描いていきます。

2016年7月、現在のぱれっとビルに拠点を構え、おかし屋・事務局移転並びに2つ目のグループホームを開設しました。その夢を乗せての拠点づくりのために2014年から2年をかけステークホルダーとともに勉強会を開いてきた経緯があります。そこで打ち立てられた方針は…

「人間関係の希薄な地域社会の中で誰もがつながり新しい生き方を見出せる拠点づくり」です。

こだわったのが、「地域」とはどこを指すのか、「誰もが」とはだれか、「新しい生き方とは」何を指すのか、何を持って「拠点」とするのか…などで、様々な議論が展開されました。

このように、今までもぱれっとが新たな事業展開を図るタイミングで、ステークホルダーと勉強会を何度か開いてきています。グループワークを行ない、一人ひとりの意見を尊重し、ぱれっとに関わる全ての人たちとともにどういったビジョンを描いていくかを大事にしてきたぱれっとがあります。

そして、新たな拠点が作られてから3年後、2019年から1年かけてステークホルダーとともに中期ビジョンを立てるべく新たに勉強会をスタートさせ3つのスローガンを立てました。

・知ろうあなたを みとめようありのままを つなげよう未来に

・泣いておこって笑って 助け合い 一緒に歩む

・楽しさを創り みんなが集まるところ・・・ぱれっと

3つのスローガンには参加した人たち一人ひとりの思いが詰まったキーワードが含まれています。

「みとめる」「つながる」「一緒に」「喜怒哀楽」「創る」「集まる」・・・

このキーワードを元に各セクションでぱれっとつうしん 2021年4・5月号から特集記事『中期計画スローガンをカタチにするために』が組まれました。1年通して書かれた記事には各事業活動の歴史の変遷(集大成)が詰まっています。ちなみにこの特集記事を組む際、これらのキーワードを軸に、「余暇・就労・生活・国際交流協力」とした各セクションの事業カテゴリーに照らし合わせ、将来を見据えるには事業計画・目標に落とし込んでいく作業が必要であると、つうしん 2020年2・3月号でのプロローグで明記されています。つまり、各セクションの事業理念の原点に立ち返る作業が大事であると謳っているのです。

●10年先のビジョンを描く勉強会

ぱれっとの50周年を見据え、今年1年かけ10年先のビジョンを描く作業が始まり、ステークホルダーとともに勉強会がスタートします。いわゆるぱれっとの未来像をみんなで描くことですが、今まで

と同じように、今年1年をターニングポイントと捉え、様々な合同勉強会を開いていきます。前回作り上げたスローガンは、「ぱれっとにかかわる人たちが更に事業を盛り上げていこう」といった気持ちの上での団結を言葉に表現しました。今回の勉強会は、40年のぱれっとの歴史の変遷を振り返り、世の中の変化を受け止めぱれっとをどう進化させていくかがテーマとなります。そこには、各セクションの理念を一度見直す作業を入れる必要性があります。そこから法人全体のビジョンを描くプロセスにつながると考えています。そのビジョンがステークホルダー全体での価値基準となり、勉強会参加者総意の下に文章化し、方向性が見えたところに、成果物として誰にでも理解できるビジョンを作成、ぱれっとの未来像につながる勉強会と捉えています。

●各セクションの事業理念を振り返る

法人の事業理念は本来普遍的な物と捉えていますが、各セクションの事業理念となると、福祉事情やその時代のニーズ変化に伴い変えていく必要があるのではないかと考えます。今のニーズに合った形でどう事業展開していくかを考える上で、事業理念の振り替りは必要な作業です。ぱれっとも40年事業継続してきていますので、10年先の未来を創造するタイミングで各セクション立ち上げ時の理念を再度確認していきます。

たまり場ぱれっと

理念：障がいのあるなしにかかわらず、余暇を通じて共に仲間づくりと可能性を見つける場です。

たまり場ぱれっとは、えびす青年教室(渋谷区教育委員会実施)に集う知的に

障がいのある青年達の間関係や生活圏の狭さに疑問を感じたボランティア有志が「日常的に安心して集える場を地域につくろう」と呼びかけ、1983年に誕生したセクションです。余暇プログラムを通して仲間づくりを行なうことをモットーに月1回の開放日と、各種クラブ活動を原則とし、様々な行事の企画運営をしています。さまざまな人や個性が光る場、参加者が自主的に主体的に活動を創造できる場を目指しています。

おかし屋・工房ぱれっと

理念：菓子・雑貨の製造・販売を通じて社会参加と自立を目指す福祉作業所です。売り上げを上げできるだけ多くの賃金を支払うことを目指します。

*作業所の特徴

- 自主製品を作り、製造から販売まで一貫した仕事を行ないます。
- 通所員にとって作業工程が理解しやすいレシピの工夫をします。
- 企業と同様に利益を追求し、従業員の労働条件を整備します。
- 企業とのつながりをつくり訪問販売を増やします。
- 通所員一人ひとりに合った仕事の選択を提供します。

ぱれっとホーム

理念：障がいのある人が自立した生活を目指し地域での暮らしをサポートするケアホームです。

○基本理念

- ・入居者の自主性・自己決定を尊重する。
- ・入居者の方が地域の中で、その人らしい生活をおくる。
- ・自分の家のような場所として、何でも相談できる家づくりを目指す。

○支援方針

- ・本人の思いに寄り添った支援を行ないます。
- ・本人の強みと可能性を引き出す支援を行ないます。
- ・入居者と同じ目線に立ち課題に対して取り組みます。
- ・自分の事を自分で決められ、不得意なところは見守りながら支援します。
- ・個別支援計画書に基づき統一した支援を行ないます。
- ・共同生活の中で、お互いが認めあえるような生活の場づくりを行ないます。

ぱれっとの家 いこっと

理念：障がいのある人もない人もコミュニケーションを大事にしながらお互い安心して暮らせる家をつくります。

- 障がいのある人も、自分の力で暮らせる家です。
- 一人ひとりが個室を持ち、共用のキッチンとリビングがあります。
- 入居者同士のコミュニケーションを大切に、自分たちで住まい方を作っていく家です。

「ぱれっとの家 いこっと」は、知的に障がいのある人の『住まい方の選択肢』を広げることがミッションとして運営するシェアハウスです。若い人、年配者、学生さん、社会人、日本人、外国人、障がいのある人などなど・・・ただ「住む」だけではなく、入居者同志の交流とコミュニケーションを大切に、住む人と事業を運営する私たち、みんなで暮らしをつくる家です。

ぱれっとインターナショナルジャパン

理念：国を超え、主に知的に障がいのある

る人たちを対象とした国際協力を行なっています。

アジアの国々を中心に、現地で障がい児者の福祉の実践をする人たちとの交流、相互研修などを通して、ぱれっとの理念を国を越えて伝え、日本のぱれっとに関わる人たちの体験の場にもしつつ、国際協力を目指すことを目的としています。福祉の分野に限らず、社会的・文化的な側面からも違う国を見ることによりスタッフの視野を広げることも目的にあります。国際交流(スタッフ招聘)プログラムの企画などを行なっています。

●組織の理念を理解する先に・・・。

誰しも望む「豊かな暮らし」とはどういった状態でしょうか。真逆な状態が「生きづらさ」と定義すればそこには色々なバリアが見えてきます。物理的・制度的・社会的(偏見)・経済的(収入)など、社会が作り上げた生きづらさが存在します。この、社会が作り上げたと定義するのが「社会(生活)モデル」という、対局にあるのが「医学モデル」です。英語では disability(ディスアビリティ)と表現されていますが、障がいがある個人の問題として捉え、治療や指導教育を施し社会に適応させるといった、「人権」ではなく「リハビリ」に主眼を置いた捉え方です。ぱれっとはこの「社会モデル」に着目し、どのように社会が変わっていけば生きづらさが豊かさに変わるか、その時代のニーズに即した形で課題解決に取り組むためにセクションを立ち上げてきました。この理念の理解を踏まえた上で、未来志向に目を向け、将来のビジョンを描く勉強会に入っていきます。

(理事長 相馬 宏昭)